

第2回大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会議事録

日時：令和7年11月28日（金）午後2時～

場所：大田区役所本庁舎 第五・第六委員会室

○事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまより、第2回大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会を開催いたします。それでは小島委員長、議事の進行をどうぞよろしくお願い申し上げます。

○小島委員長

よろしくお願いいたします。先ほどご案内がありましたけども、本日の会議につきましては、傍聴席での写真撮影、録音、録画、放送等は、控えていただくようお願い申し上げます。本日の議事については6つございますが、時間も限られておりますので、関連するものをまとめて事務局からご説明をいただきたいと思います。

では、まず議事の(1)から(4)までの説明をお願いいたします。

○事務局

選挙管理委員会事務局長片平でございます。よろしくお願いいたします。まず資料の1、前回の第1回委員会の内容を簡潔に振り返らせていただきます。第1回では田中選挙管理委員会委員長から今回の不適正事案により区民の皆様の信頼を損ねてしまったことへのお詫びと、事案の検証及び再発防止に向けて委員会を設置した趣旨についてご説明をいただきました。その後、委員の互選により小島委員が委員長に就任されまして、今後は中立的かつ実務的な視点から検証を進めていくという方針をお示しいただきました。続いて事務局からは、不在者投票者数の二重計上および開票所での白票水増しといった不適正処理の概要について説明をしております。委員の皆さまからは、データの表示形式の定義・明確化が必要であること、チェック体制の弱さ、帳票突合の不足、そして業務全体の構造理解が十分ではない点など、重要なご指摘をいただいております。最後に、今後は原因分析と課題整理を行い、再発防止策の検討へ進むというスケジュールについて、ご了承をいただいております。

続きまして、資料2についてご説明申し上げます。こちらは、令和7年参議院選挙当時の選挙管理委員会事務局の業務体制を整理したものでございます。まず、執行

体制でございますが、局長の下に開票担当係長、投票担当係長が設置されておりまして、その配下に事務局職員および兼務職員が従事する形となっております。兼務職員は通常業務を行いながら選挙事務に従事するため、選挙準備期間などにおいて、通常業務とのすみ分けが明確ではない状況があり、結果として通常時間外での勤務に依存せざるを得ない点が課題であると認識しております。次に、事務局職員の在籍年数でございますが、1年未満の職員が5名と、比較的経験の浅い職員が一定数を占めておりました。続いて、3の超過勤務の状況でございます。4から7月にかけて、特に6月・7月は選挙準備の繁忙期となりまして、事務局職員は100時間以上の超過勤務となっております。最後に、4の他区との体制比較です。規模が近い自治体と比較しますと、当区は選管OB職員の投入人数が少なく、とくに投票日前日および当日の体制に差が見て取れます。以上が資料2の説明でございます。続きまして、資料3の「職務別研修の現状」についてご説明させていただきます。まず、事務局職員向けの研修です。初任者研修につきましては、対象となる全職員13名が受講しておりまして、受講率は100%となっております。一方で、東京都選挙管理委員会など外部機関が実施する専門研修は、受講率が4から5割程度にとどまっておりまして、職員の経験年数や担当業務に応じた研修機会が十分とはいえない状況でございました。こちらに関しましては現在100%の受講を目指し、達成しているところでございます。次に、期日前投票事務の従事者研修についてです。こちらは業務委託の体制によって運用されておりまして、エリアマネージャー・統括、案内係・庶務係、名簿対照・用紙交付係といった各担当で、動画配信・座学・ロールプレイング等を組み合わせた研修が行われていまして、アンケートにて習熟度を確認しております。受講率はすべて100%となっております。続いて、当日投票事務の従事者研修でございます。事務長・庶務係長・相談係のいわゆる三役につきましては、対面での事務説明、提要の重要箇所、変更点の説明、初めて従事する職員向けの詳細研修、これらを実施しておりまして、受講率は、ほぼ100%に近い状況となっています。一方で、当日投票システム操作研修については、区職員全体では27%と低く見えますが、こちらは研修が「初めてシステムを扱う職員」「その他受講を希望する職員」を対象にしていますので、このように低く見える状況でございます。最後に、開票事務の研修についてでございます。集計班や疑問班は一定の受講が進んでいる一方で、リジェクト班では受講率が6割程度であり、ばらつき

が見られます。また、検査班や結束班など一部の班では研修が未実施となっており、事前の班長へのマニュアル配信や打合せのみで対応している状況です。従事者アンケートでも、とくに疑問班やリジェクト班など「専門性の高い班」については、事前研修の強化を求める声が多く寄せられておりました。そのため、研修体系を担当ごとに整理し、実地型の演習やトラブルを想定した対応を取り入れることが課題であると認識をしております。以上が、資料3の説明となります。

続きまして、資料4でございます。「投票者数確定までの時間的制約」についてご説明いたします。まず、当日投票が午後8時に終了した後、各投票所では、投票録作成と投票速報システムの報告をおおむね午後8時15分頃までに行っている状況です。そのうえで、午後8時15分過ぎには投票箱と投票録等を投票所から搬出しまして、午後8時45分頃までに開票所へ到着するフローとなっております。速報室では、この到着したすべての投票録を確認し、午後9時30分までの約45分間で投票者総数を確定する必要があります。この作業は、選挙の規模に関わらず、選管職員1名と応援職員3名の、計4名体制で行われておりました。また、投票所からの投票速報においては、一部で誤入力や報告漏れが発生しておりまして、その背景としては、庶務係長に業務が集中していること、この作業に関する研修が十分ではないことなどが挙げられます。さらに、送致準備と集計作業を短時間で行う必要があります。現場に大きな時間的なプレッシャーが生じている状況です。開票速報は午後10時が初回となっておりますが、当然ながら投票者総数が確定しない限り開票速報を公表することができません。ここでも時間の制約というプレッシャーがございます。以上が資料4の説明となります。以上でございます。

○小島委員長

ありがとうございました。今4点、ご説明が事務局のほうからありましたけども、委員の皆様、説明等につきまして、ご意見、その他、各資料等についてありましたら、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。何かありますでしょうか。

○堀江委員

すみません、堀江でございます。事務局におかれましてはいつも細かい資料の作成ありがとうございます。資料の2のところでお伺いをしたいんですけど。3つあるんですが、1つは2番目の丸のところで、兼務期間に係る従事時間の協議がなされていないということで兼務職員を出すにあたって大変ということはよくわかるの

で、1つその辺をまとめておいていただければ良いのかなという気がします。3つというお話をしたんですけど。1つはですね、兼務職員が従事するのは、期日前投票所の方に勤務するのか、それとも当日投票所の方に勤務されるか、それとその2つに参加した場合、勤務後の感想やフィードバックがされているのかなと。それと研修の項目が出てきたんですけど、それらに反映するのではないかなということをこの資料を見ながら考えさせていただいたんですけど。勤務後のフィードバック、選挙管理委員会さんの方で、何か聞いて残しておくようなこと、それらがいずれノウハウの蓄積みたいになると思うので、その辺はどのようにされているのかなと思ひまして、質問させていただきました。

○事務局

はい、兼務職員の勤務状況なのですが、兼務職員につきましては、あくまでも選挙管理委員会事務局の業務のフォローということで、実際に期日前投票所で従事することは原則ありません。場合によっては、設営のところで困ったりする時に過去に兼務職員を派遣して現場を確認するような作業があったりはするのですが、原則としては、どちらかという事務局側の仕事のフォローということで、不在者投票の処理であったり、あとは場合によっては電話の受付などもしておるような状況でございます。また当日投票についても、事前の設営の時に、ちょっとここがわからないとかそういった時にに関しては行くことはあるのですが、やはり原則としては我々の事務局側の業務のフォローという位置付けで今は業務を行っております。また、終了後に何かフィードバックというところなのですが、実際にはそういった声を集めるというところは特段やってはおらないような状況にはあるので、もちろん業務中にこうした方が良いんじゃないかという声はあったりはするのですが、何かこちらのほうで集約して、次回に生かすということは現状あまりできていないような状況でございます。

○事務局

補足させていただいてよろしいでしょうか。投票事務におきましては、アンケートで、例えばカラーコーンが足りなかった、こういうオペレーションが良いのではないかなどフィードバックさせていただいて、それを次の選挙の時に生かすような試みはしているというところでございます。

○佐藤委員

佐藤の方から質問させていただきます。資料2の4番目 他区との執行体制比較というところがございます、大田区の場合は人員がすごく少ないというようなご説明を先ほどしていただいたところなのですけれども、これは何か原因があるのか、あるいは選挙のための人員を集めるにあたって、どのような苦労があるのか、あるいは執行人員が少ないということについての、大田区特有の問題と申しますか、他の区の場合も同じような問題はあるかとは思いますが、その点についてご教示いただければと思います。

○事務局

私もすべてを把握しているわけではないので、一部想定のところはあるかもしれませんが、いわゆる兼務職員というのは、選挙管理委員会事務局には在籍経験のあるものが1つの要件となっております。その中で選管というのは、過去の体制などを見ても、若手の職員か、もしくは年配の職員の方で構成されているような中でありまして、年配の方はおのずと退職されておって、若手の方は、どちらかというとライフプランでいうと、結婚とか、子供が生まれたりして、なかなか勤務時間外に従事できないような人員の方もおられるので、集めるに至っては直近の選管事務局に在籍していた若手の職員とか、そういったところに限定されてしまうので、実際には他の地区と比べると体制的に人員は少ないような状況でございます。

○事務局

ここの数字とは直接関係はしてこないと思うのですが、前回、第1回の時にお示しさせていただいた、数百人規模の人員を、今のところ募集制で集めているということも、部局に割り当てて募集するなど、現在、体制を整えるのが難しい状況を改善していきたいと考えております。

○谷口委員

資料を用意していただき、ありがとうございました。谷口です。資料2と3に関連して質問です。資料2は、たくさんの研修が実際に行われていて素晴らしいと思ったのですが、研修というのはおそらく、やることが決まっているからその担当の方々にそれを浸透させるってということだと想像するのですけれども、一方で資料2の執行体制の方々とか、それぞれのセクションの責任者の方々が、こういうフローでいこうというような手続きを共有するような会議とか、そういったものは断続的

に行われていたのかということが第一の質問です。1つ目の集計ミスの背景には、作業フローに関するお互いの認識の食い違いがあったと思うので、執行部の方々がフローを全体的に確認した後、現場担当者の方々が皆で情報共有したり、確認するような会議っていうのがあったのかということですね。もう1つの質問が資料4の点で、タイムプレッシャーというか、これだけの短い時間での作業は本当に大変なことだと思います。その中で、午後10時に開票速報を出すというのは、どれぐらい差し迫ったハードルだったのでしょうか。もしかすると今回の2番目の不正報告の問題っていうのは、開票速報を遅らせてでも再確認できたなら、起きなかったかもしれない。したがって、どれぐらい時間のプレッシャーが強かったのかを教えてください。

○事務局

はい、1つ目のフローについてでございますが、まず資料8の中で、緊急時フロー等がないということが、課題であると感じております。一方で、例えば、投票所のフローは、しっかりとした事務提要が確立されています。開票担当の全体の開票事務提要というものがあるのですが、別に集計班のフローなど個々のマニュアルもございます。ただ、そのマニュアルがご指摘のように、各班では、班長にそのフローを渡し、下の人がフローを理解していないという課題が、今回のアンケートの中でも出てきています。全体的なフローとそれを見える化することが、改善の1つだという認識がございます。

○事務局

あと時間的制約のところなんです、実際に速報担当の業務に携わっていた者に聞く限りは、速報担当というのは、投票所から当日、システムなり投票録という紙媒体なりで投票者数などが開票所へ送致されて、それを約45分間で集計しなければならないんですが、プレッシャーというか、まずきちんとした形で報告がなされていないケースが多く、ただこれは決して投票所の従事者ができてないというわけではなく、もともとのオペレーションで集計作業の研修等を現状実施できておらず、マニュアルを渡すのみになっていたり、我々としても集計作業だけを集中してやってくれということとは言えないような状況です。言えないというのは、実際にこれを行っているのは投票所の庶務係長という役職でありまして、集計作業以外にも、食糧の手配やシフトなど、なかなか休憩も取れないような声も上がってきている役職の方

に、さらに我々の方で集計業務を強いるということができないような状況も伴って、速報担当の方でかなり業務のプレッシャーというか、やらなければならないことが多くなってしまっています。また、開票の速報、いわゆる速報をホームページに公表したり、報道機関の方にも公表するものなのですが、これは大田区に限らず、どの自治体もいち早く公表するというのは、暗黙の了解のようなことになっておるので、我々としても9時半までに、早くしてくれと言われてしまうところもあるので、そういったプレッシャーの中でやっているのが現状でございます。

○事務局

研修の補足なんですけども、投票事務・開票事務いずれも先ほど申し上げた通り、事務提要があって、全体説明会があるというところですが、開票においては、班ごとに打ち合わせ、個別の打ち合わせがあるものの、例えば全体の中での、ここが重要なポイントですとか、そういった班ごとの重要なポイント認識する、認識の共有の場っていうのは実態としてはなくて、作業の確認とにとどまっているような現状があると思います。

○小島委員長

ちょっと私の方から1つ。開票事務は個々のパートの業務が時間的に繋がって連鎖し、最終的には数字をもって結果が出るんですけども、全体の中で、各パートがどういう仕事をしているのか、全体の中でどういう位置付けなのかということを理解しないとだめだと思うんですね。ですから個々の担当者が自分のところの仕事だけ理解してもらっても、その仕事は次のどのセクションと繋がっているのかですね、そういうことも含めて、全体的な打ち合わせというか、フローというか、そういうものが絶対的に必要だと思います。業務を分解して、分解した個々の部分だけを説明してしまうとそのことしかわかりませんので、自分たちの仕事がどこに繋がってどう影響しているのかっていうことがなかなか理解できない。そういうことになる可能性がある。ぜひ全体的なフロー、今までも各委員さんからご指摘あったように必要だと思いますね。

他によろしいですか。それでは私からまた1つ。研修なんですけど、研修を色々やられていて、本当にこれは結構だというふうに思うんですけども。個々の細かい実務的な研修という観点では色々おやりになっているということなんですけれども、実務の前に選挙事務に対する意識だとか、公務員として自分たちの仕事としてどう

いう位置付けなんだというような、そういう意識付けがないといけない。ですから業務的研修は当然として、その前提となる意識付けというものもやるべきかなと思っています。私も経験はありますけども、研修というと、公職選挙法の規定の勉強になるわけですけども、ところがその選挙の管理執行というものはなんだろうと。管理執行の基本は、それに対する意識とか考え方という部分が欠落していると、やはり、個々の自分のルーティンワーク的な部分しか見ないから、そうすると自分の仕事さえ取り敢えずうまくやれば良い、自分の担当する数字さえ固めれば良い、そういうことになると今回みたいなケースも起こる可能性が高いかなという感じがします。研修そのものは色々やられているので、よろしいかなというふうに思いますけれども、その意識付けという部分で、当然この中でされてるとは思いますけれどもね、初任者研修でね。新任・新卒で採用された、区役所に配属されるじゃないですか。その方たちの新任・新卒研修があると思うのですが、その時に選挙の話が出るんですかね。

○事務局

残念ながら、現状は実施していない状況でございます。

○小島委員長

選挙というのは、地方公共団体の存立を担う、極めて公務員として当然の業務ということになりますと、その話がないというのはちょっと厳しいかなと私は思いますね。実際私の勤めていたところでも当初なかったのですが、研修所にいろいろ言って理解していただき実施することになりました。採用時の最初にきちっと意識っていうのを植え付けておくことが、新任早々、それが非常に重要になってくると思います。研修そのものは資料3にある通りで結構だと思います。プラスアルファで。

○佐藤委員

ありがとうございます。今まで委員の先生方がおっしゃったように、今回のケースは不在者投票の二重計上ということで、連絡ミス、コミュニケーションミスということだと思うんですけども、研修をする、意識付けをする、ミスしないように個々の方たちを教育するということが、これももちろん非常に重要ですし、ミスをしないような体制を整えていくっていうことも、非常に重要な点だと思っております。ただ、やはり、なかなかミスっていうのは無くならないというのも人間です。自分の身に照らしても、えっと思うようなことのミスをしてしまうということ

が多々ございますので、ミスをすることもあり得るという前提でシステム・プロセスというものを立てていくということが重要ではないのかなと思っております。人間なのでミスをするということを頭に入れた上でのシステム構築と、あと、前回委員の先生方にご指摘していただいたと思いますけれども、チェック機能、こちらも重要なかなというふうに思っておりますので、そのあたりにつきましても、やってらっしゃると思うんですけれども、ご検討いただければと思います。

○小島委員長

ありがとうございます。その他よろしいですか。時間の関係もありますので、最初の話はこのぐらいにして、次に進みたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。次は、資料(5)ですね。「従事職員のアンケート」。かなり詳細にアンケート取っていただきましたので、非常に重要な部分ですので、説明をよろしくお願ひしたいと思います。

○事務局

はい。資料の5について、抜粋して説明をさせていただきます。投票事務・開票事務の2つでございます。両方とも回答率として80%ほど回答をいただいているというところでございます。まず、投票事務従事者のアンケート結果でございます。Q1 投票事務については、従事経験が4回以上の職員が7割を占めておりまして、一定の経験値がある一方で、Q2 事務長や庶務係長など、役割が重い三役におきましては「業務が難しい」と感じている割合が高いということが特徴として見られます。Q3 コミュニケーションについては、9割程度が「概ね取れていた」と回答しているものの、Q4 人員面で「不足気味」と感じる回答が約16%ほどあり、特に庶務係長の負担集中に関する指摘が多く寄せられております。また、Q7 事務提要は概ね理解はされている一方で、分かりづらさでしたり、重要なポイントとのメリハリが不足しているという声もいただいております。チェックリストやフローチャートなど、情報整理の必要性が示されているというところで、先ほどご意見いただいた通り、フロー・流れが分かるようにしてほしいといった要望もいただいているというところでございます。さらに、Q11 のダブルチェック、先ほどチェックの話が出ましたが、必要性について多くの意見が寄せられておりまして、特に投票録や名簿対照、イレギュラー案件での複数確認の重要性というところで指摘をいただいたところでございます。次に、もう1つの開票事務従事者のアンケート結果の方をご紹介します。

させていただければと思います。Q1 経験回数は幅広く分布していますが、Q2 疑問班・集計班など、一部の班では「知識や経験が必要で難しい」と感じている割合が多いという状況です。業務ごとの難易度差が大きいことがここから明らかになっていると思います。Q3のコミュニケーションは概ね良好という回答が多いものの、Q4 人員に関しては、疑問班・検査班などで一部の班で不足感が指摘されているというところではあります。Q5のトラブル時の相談先については6割程度が把握している状況でございますが、開票作業特有の複雑さから、班ごとの判断基準だったり、依頼ルートにばらつきが見られるというところがあります。Q7 開票事務提要については、9割以上が理解できていると回答しているものの、Q16「説明会がなく分かりにくい」でしたり、「内容の更新が追いついていない」など、早く対応・更新してほしいというような声も多くいただいております。それと事前説明の充実も求められております。また、深夜に及ぶ長時間の従事による負担や、待機時間の長さ、作業環境への改善要望、そういったところも寄せられているところでございます。最後に、投票・開票の双方に共通する課題として、三役や班長など責任者への負担の集中、マニュアルや事務提要を分かりやすくした方が良いのではないかとということと、相談体制や判断基準の統一不足、あと人員体制の偏り、といったものが共通して課題として浮かび上がってきているというところでございます。雑ぱくですが、以上が資料5の説明となります。

○小島委員長

ありがとうございました。委員の皆様方、それぞれのアンケートの中身を見て、特にその自由記述の部分など見てですね、何かご質問、また考えるべきこと、そういったものがあれば、ぜひご提示いただきたいと思います。

○佐藤委員

ありがとうございます。今後の課題ですか、そちらの書き込みを拝見させていただいて、今回、皆さん、原因を認識してらっしゃるなというふうに思ったんですけれども、私のほうで、特にこのあたりが関係するのかなと思ったのが、長時間労働、人手不足、選管OB頼みの経験則運営であるという記述。あと庶務係長の事務分担の過重である、名もない事務が多々あるという点。それから、投票事務がとても時間が長い勤務で疲労が蓄積されているにもかかわらず、ミスが許されないという状況があるというようなこともご指摘されておまして、長期間、疲労が溜まってい

る中で緊張が続くというミスが出やすい状況であったのかなというところを感じ取りました。あと、また同じように重要だなと思ったのが、小さなミスを安心して報告できる風通しと早期エスカレーションの仕組みが必要との点、早く終わらせなければというプレッシャーがあったという記述もございまして、プレッシャーの中で、先ほど谷口委員もおっしゃられましたけれども、早く終わらせなければいけないというプレッシャーを感じている中で、ミスをしてはいけない、ミスをしてもこれを報告できない、安心して伝えることができない、というところがかかり、それもプラスされてプレッシャーになったのかなというふうに感じ取ることができました。この記述部分にも書かれていることですが、スピードよりも正確性を重視するように意識を改善、皆さんが変えていくということも重要なのではないかなというふうに私の方は感じ取った次第です。

○小島委員長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○谷口委員

はい、丁寧なアンケートをありがとうございました。グラフなどを拝見していると、いわゆる量的な質問項目に関しては、それほど問題は認識されていないようですね。研修もあったし、コミュニケーションも取れていたし、連絡先もわかったし、作業が難しいというわけでもなかったし、様々な点で量的な意味ではあまり問題性は感じられなかったようですが、いわゆる3役の皆さんの業務が大変だというご回答は顕著に出ていたと。それについて最後の自由記述のところでのご回答等を見ますと、先ほどの佐藤委員のご指摘もあったように、個人の責任が重いような業務になると、成り手不足を生んでしまうと。優秀で頑張り屋さんほど仕事が集中してしまって、いろんな仕事をやっているのに、そういう人が責任を取られるというのは不条理であるというふうな職員の方の思いもあると思います。また、今回の集計ミスの問題に関して言えば、作業がおかしかったわけではなくて、情報管理とか書式の改善で策を打てる部分がある。よく行政事務の棚卸しと言いますけれども、不要な作業を削る、業務を効率化することも重要と考えられます。問題が起きると、当日の確認業務等を増やすといった方向もあるでしょうが、むしろ今回も不要な工程を無くしたほうが、ミスが生じなかったという点もご提案されている通りだと思います。職員の皆さんにとっても、自分たちのやったことに問題がないの

に、別の問題が起きて、仕事が増えると感じられてしまうことがないように、一旦業務の棚卸しをして、効率化することもあり得るか。先ほどのような指摘もあったように、あまり人に頼らない、誰がやってもミスが生じにくいように、事前に準備できれば良いかなということを感じました。

○小島委員長

ありがとうございます。その他いかがですか。どうぞ。

○堀江委員

2人の先生方のご意見と同じなんですけど、私ここに出てるように、対応に困った場合は推測の判断をせず、事務局に確認をして、適正な処理をするというところかなということと、あと悪い言い方をすると、寄せ集めで人が集まって作業しているということになると意思疎通が難しくなるのかなと。自分のことを話すとあれなんですけど、何年か期日前と投票所を担当した時、スタッフはほとんど同じ方でした。たまたまラッキーだったのかなということにもなるんですけど、そうすると、何回か後になってスタッフが変わった時に、それも顔見知りの方であって、声をかけやすかったんだというようなこともありました。それと、始まる前に必ず挨拶というか、自己紹介をする。その中で一言何かあればと言った時に、必ず蒲田の本庁に行って事前に勉強してきましたと、ここで、練習してくれるとか、本庁の期日前投票所に携わるといろいろな経験があるんですね。それで、なかなかできない開票所の手伝いをやったことがありますという方がいて、その話もちよっと出してくれたりということがありました。ですから、一番難しいのは、ただ、質問を聞いた時にすぐぱっと答えてくれるとか、このスタッフは古くやってるのかどうかなと、いつもとは異なる本庁での期日前投票所にも従事したことがあるんですけど、その辺の心配がありましたね。その場合、誰に聞けば良いのかなというようなことと、どういうふうに過ごしたら良いかなということも。本庁の場合、1日だけの従事で、続けて何日もってことはないの、その辺の違いで我々が従事でよかったのかなとか、わからないことがあったりするとちょっと心配ということがありました。それから、ここに書いてある開票システム、集計のトラブル、集計班、本部ともに、選挙管理委員会事務局に、よく聞いて確認をしましょうということですね。二重チェックみたいなような形を十分とってあれば、今回のことはなかったのかなと。4のフローで見ると、8時に終了して15分、30分以内に開票所に着かないといけない

というと相当ハードということもありますね。じゃあ研修の方はどういうふうに生かされるのかなということになると、先ほどロールプレイングみたいに色々、3時間で90人ぐらいの方が練習をするというようなことが出ている部分がありました。そうすると時間にすると見学だけで終わっちゃうのかなと。あとはぶっつけ本番でこなしていくのかなってというようなことをちょっと心配したりもあります。ですからその辺をうまく、研修を加味するとかですね、やっていただけると良いのかな。感想で申し訳ないですけど以上です。

○小島委員長

ありがとうございます。今委員の皆さんからお話あった点について、何か事務局のほうで、補足というか、何か説明事項はありますか。

○事務局

最後、堀江委員の方からご指摘いただいた通り、機械などの操作は実際に、操作研修があるんですけども、例えば、先ほどうちの係長からも話がありましたが、投票録を最後まとめるための研修だとか、今回の事案がある中で、すごく重要だと感じているところでございます。

○小島委員長

よろしいですか。はい。それでは、私のほうから。まずいろんな選挙の管理執行をやって私も経験あるんですけども、ミスと思われる事象が発生した時に、そこで、その担当者が飲み込んでしまうか、それとも、こういう事態が懸念されますという話を持っていけるセクション、そういったところが必要であるというふうに思います。先ほど、風通しの話がありましたが、佐藤委員から、必ずミスは起きるものだという前提でミスが起きた時に、またそういう懸念がある時に、話を持っていける組織というか体制というか。例えば開票所であればですね、コンプライアンス担当職員を置き、そこに何か懸念があったら速やかに報告し、そこで懸念対象事項を整理、協議して、そして速やかに開票管理者に報告し、開票立会人にも説明するという、そういう全体的な組織的關係というものがあつたほうが良いかなというふうに思いますし、多分それも望んでいるかなという感じがします。

それからあと、研修というかですね、例えば開票事務も個々の部分というよりも、まず、全体の開票管理者の開票開始宣言から始まって、それで開示分類をやって、第1内容点検、第2内容点検、それから第1計数、第2計数をやって、やっと有効

投票として回せるっていう状態になるわけですよ。その一連の流れを全体で確認し合う。それをしたほうが良いかなというふうに思います。私の出身のところでは、参議院の比例代表選挙では、それ必ずやってます。そうすることによって、自分の仕事の位置付けはどうなんだろう、どこにあるんだろうということが確認できるというふうに思います。ユニットで部品的にですね、研修するのも良いんですけども、それでは自分のところしかわかりませんので、横の繋がり、組織としてなかなか運営しにくいんだろうなと、そんな感じがしているというところでございます。あとは、マニュアル的な話なんですけど、マニュアルも結局読む人によって解釈が違うようなマニュアルは、マニュアルとして失格だと思うんですね。誰が読んでも同じように解釈できるマニュアルにするということで、1回アンケートというかね、このマニュアルで、実際大丈夫だったのか、問題なかったのか、読み違えたところはないのか、プラスアルファすべきところはないのかのアンケートをやってみると、次に繋がるのかなという感じはしてますし。それから私の経験でもマニュアル作って、全く選挙事務やったことない人に読んでもらう。全くやったことない人に読んでもらって、意味がわかるか。そうしたことも必要かなと感じたところですので、ぜひ参考意見として聞いていただきたいと思います。

○事務局

ご指摘いただいた通り開票事務のところは、やはり全体的な研修がないというところが課題だと思っています。個々のセクションで個々の研修しかしていないので、全体が見えてないのが課題であると思っています。それと判断に迷うようなマニュアル、例えば、正しくセットされましたかみたいなマニュアルになっていると、何が正しいのかわからないので、例えば、赤い紙をセットしましたか、参議院選の紙を設定しましたかというように、今回を機に様々変えているという状況でございます。

○小島委員長

はい、その他、よろしいでしょうか。はいどうぞ。

○堀江委員

自分の研修参加の時に、振り返りをして怒られてしまうかもしれないですけど。ただ時間を過ごしてしまったと言ったら申し訳ないんですけど、そういうのもありますしね。ですから、どの程度自分が習得できたか、アンケートなりなんなりで見て

もらっても良いのかなと。貴重な時間で研修に出させてもらうわけですから、ただ時間を過ごしていただけてというのはまずいんじゃないかというようなこともあるんで、自分の反省含めてですね。そういう方が結構多いかなと。そんなような気がしますね。

○小島委員長

その他よろしいでしょうか。それでは、この件につきましてはこの程度にしてよろしいかと思います。次に、6の課題に対する改善策。これが今日のメインということだと思いますので説明の方、よろしくお願いいたしますと思います。

○事務局

まず資料6でございます。速報業務における不在者投票者数の二重計上についてご説明をさせていただきます。現行の速報業務の流れにつきましては、前回の委員会でご説明しておりますので、本日はその中でも、二重計上がどのように発生したのか、そして改善策を中心にご説明をさせていただきます。まず、今回の誤りが生じた背景というところを少し補足させていただきたいというところで、3ページ目をご覧ください。不在者投票担当から提出されたPDFファイルの「不在者投票集計表」には、「7月4日から7月20日までの累計値」が記載されておりました。これを、当日の数値と誤認して、そのままExcelに入力してしまったことが原因となっております。また、不在者投票担当と速報担当がやり取りするデータの各々の認識の相違も原因の一つでございました。速報担当が累計のPDFファイルを受け取った時点で、累計ではなく「当日のPDF」ファイルを出して欲しいという依頼をかけていれば、今回のミスはなかったというところも、一つの要因としてございます。次のページをご覧ください。現行のシステムにおきましては、CSVの出力が当日できないという構成がありまして、一人がPDFファイルを読み上げて、一人が手入力をしておりました。打ち込んでいる方がPDFファイルの資料自体を見ておらず、入力に特化しているというところも、誤認に気づきにくい状況かと思っております。次のページをご覧ください。集計用Excelファイルの数式として、前日までの数値と当日分が加算される関数が入力されておまして、ここで結果的に19日までの累計と20日までの累計が足されて、これを最終的な数値としてしまったというところが要因でございます。それでは、次のページをご覧ください。ここから改善策について4点、ご説明をさせていただきます。1つ目は、当日分の不在者投票者数のCSV形

式化です。こちらは、(国主導で全国的に進められている)システム標準化に対応した後、当日に不在者投票者数を CSV 形式で出力できるようになる予定ですので、これにより、読み上げ・手入力の工程を無くして、コピー&ペーストによる正確な転記、それと入力者のデータの認識ができるようになると思っております。2つ目は、過去のデータとの比較・確認です。同じ種類の選挙における前回の実績値をあらかじめ Excel に入力しておきまして、今回入力した数値が大きく離れた場合には、自動でアラートが出る仕組みに改めたいと考えております。次ページをご覧ください。3つ目は、19 日までの累計値を使用しない運用へ変更したいというところですが、速報業務において、19 日までの「不在者投票者数」を使用しないで、当日の「不在者投票総数」のみを扱う運用に改めて、二重計上のリスクを排除いたします。最後に、4つ目です。確定報告の決裁のプロセスを強化したいと考えております。最終的な投票者数の確定について、投票担当係長、事務局長などの決裁をルール化しまして、複数のチェックポイントを設けることで、誤りの見落としを防止していきます。これは今回の「不在者投票者数」だけではなくて、「当日の総数」など、そういったもの全て見ていくオペレーションに変えたいと思っております。続きまして、資料の 7 をご覧ください。資料 7 の時間別投票者数集計についてご説明いたします。まず前提としまして、投票者総数の精度を高めることが何より重要であるという点を申し上げたいと思います。投票者総数が不正確なまま開票に進みますと、票数の不一致が発生しまして、開票所での再計数でしたり、原因特定に多大な時間を要することになります。そのために、投票所段階での精度向上が、全体の根幹となると認識をしております。それでは、現状の投票者数の記録方法と課題について説明をさせていただきます。1 ページ目、2 ページ目をご覧ください。現在、当日の 7 時から 19 時の間に記録しているのは、「当日投票システムの投票者数」「点字投票者数」「棄権者数」の 3 点のみで、時間ごとの突合はルール化されていないというのが現状でございます。一部の投票所では、自主的に、時間ごとの確認を行っていますが、ルール化された運用には至っていないというところです。このため、20 時の投票所閉鎖後に、初めて「投票者数」と「投票数」を突合する投票所もありまして、不一致が生じて、どの時間帯で発生したのか、特定が非常に困難という課題があります。また、先ほどの時間の制約というところでもありましたが、庶務係長が、集計から投票録記入までを単独で担っているために、チェック機

能が働きにくいという体制となっております。以上が、現状の課題でございます。

それでは、3 ページ目をご覧ください。ここからが改善策となります。今回の提案は、投票時間中に、時間ごとの「投票者数」「投票数」「入場整理券回収数」を集計しまして、突合する方式に改めるものでございます。この3 点を時間ごとに確認することで、名簿対照漏れ、投票用紙交付機のカウンター誤差、入場整理券の回収漏れ、こういったことが、これまで20 時まで気づかなかったズレを早期に把握できるようになります。次ページをご覧ください。「当日投票システムの投票者数」「投票用紙交付機のカウンター」「入場整理券の回収数」を用いまして、時間ごとの投票者数を算出し、突合します。さらに、事務長と庶務係長等が確認することをルール化いたしまして、不一致が発生した場合には、その時点で選管に相談するなど、早期にリカバリーできるような運用としたいと考えております。次ページをご覧ください。投票所閉鎖後は、当日投票システムなどから算出する投票者数に加えて、残票からの票数計算とも突合した上で、最終的な投票者数を確定します。次ページをご覧ください。集計表を活用しまして、記載内容を投票録へ正確に転記します。せっかく新しく「時間別投票者集計表」というものを作るので、これをそのまま投票録の方に転記するように、事務提要の方にも反映しまして、ルール化をしていこうかと思っております。最終的には、出来上がった投票録を投票速報システムに入力して、最後報告するという流れで考えております。それでは最後のページをご覧ください。時間別集計の効果というところで、1 点目は投票者数の精度向上です。複数データで時間ごとに確認するため、集計の正確性が大幅に高まります。また、ルール化することで、投票所全体の標準化を図れるというところでございます。2 点目は不一致の原因特定が容易になるということです。時間ごとに記録が残ることで、ズレが生じた際においても、その時点での入場整理券と、当日投票システムを突合するなどして、どこでカウントしていないかなど、容易に確認することができ、迅速な対応が可能となります。私も実際に投票の事務長をやっていた時に、時間ごとに管理をしていました。やはり、投票システムとカウンターのズレが出た時に、1 時間前の入場整理券を調べて、パソコンと見合わせていくと、入力されていないことに気付いて、そこで再入力することで数の整合性が取れた経験がございます。これを標準化することで、投票所全体の精度が上がっていくと思っております。以上が、資料7 の説明でございます。

○小島委員長

ただ今の資料についていかがですか、皆様。はいどうぞ。

○佐藤委員

はい。私からは資料6について、コメントになるのですが、こちらは投票速報のやり方についての改善策を提案していただいております。手続きとしてすごくシンプル化してミスのでないような状況にすると。さらに、今まではデータを1人がチェックするような状態で、1人が入力専門のような形だったのが、2人でデータをチェックできる体制にすると。さらに、アラート機能をつけるということで、見落とししたとしても、アラートが鳴るというようなことにしていただいているということで、かなりミスがあるということを前提とした対応を取っていただいているなと思います。良いなと思ったのが前回との比較表の付記。これを提示することによって、あれっ？って思ってもらえる気づきのポイントを付け加えてくださっているのは非常に良いことだなと思っております。入力を普通に、機械的におこなっていると、なかなか気づくのが難しいというのが人間だと思うので、その時にちょっと目をやって、前回はどうだったのかなというのをチェックするだけでミスが気付きやすくなるかなと。さらに、入力してる本人は忙しくて気づかなかったとしても、決裁官といいますか、チェックをされる方というものを作っていただいているので、そちらのほうできちっと見ていただける、そういうような体制になったのではないかなというふうに私のほうで思っております。ありがとうございました。

○小島委員長

ありがとうございます。どうぞ。

○谷口委員

はい、ありがとうございました。前回の会議の時にも、二重計上の経緯や様子は既に教えていただいたのですが、それが一体、具体的にはどんな画面や入力のありようからなったのかというのは分からなかったもので、今回このような資料を用意してくださったことで、よく詳細が分かりました。今後、報告書作成なり説明なりの時に、今回の集計ミスの方の具体的な様子と原因は何だったのかということのために、この資料がとても大事だと思うんですね。これを拝見して勉強させていただいたのは、私は、諸悪の根源はやっぱりこのPDFファイルだったなと。入力画面というよりは出力書式のあり方なので、自動的にこんなふうに出力されたんだと

想像します。この PDF ファイルのページを見ますと、事務局でご示唆していただいているように、PDF ファイルの①の方では、令和 7 年 7 月 4 日～7 月 20 日と漫然と数字が書いてあるだけで、これがデータの何日から何日までという期間を示すというような日付の定義がない。また②のほうも、令和 7 年 7 月 20 日と、これも漫然と日付だけ書いてあり、説明がないわけですね。実態としては①がデータの期間、累積値ですよということを示し、②が「出力時」ですね、時間まで書いてあるから。その説明がないので、初めて見た人には日付の意味が分からない。先ほど、小島先生からお話があったように、初めて見た人には分からないことだらけだと、違う人が担当する時に分からなくなってしまうということがあったのかなと。前日までの作業をした方は累積の数字を作ってアップロードして、当日の人は当日分だけ来るものだと思っていたということで、ここに認識のズレないしは情報共有不足があった。けれども、仮にそういった認識不足や情報共有の不足があっても、この PDF ファイルの書式さえしっかりしていれば、実は当日リカバリーできたと思うんですね。つまり、①のところで、これは「ここからここまでの期間のデータです」とはっきり書いてあれば、そうかこれは累積なんだということで、当日分という Excel シートは使わないで、総数の数字だけ入力するというような、臨機応変に対応できたと思います。そういう意味では、前回の資料 1 のほうに書いてくださっているとすけれども、後にある、今後の改善策のところ、基本中の基本として、書類が明確で分かりやすいこと、誰が見ても分かるような書式であることが重要だと思います。もう 1 つの資料 7 についてなんですけれども、先ほどのアンケートの中でも、投票時間中は手持ち無沙汰の職員もいるといった回答がありました。その投票時間中に、大きなズレがないかどうか確認しておけば開票後に慌てなくて良いですし、緊張感も保たれるというふうに思います。一方で、私が知識不足で申し訳ないんですけれども、この資料 7 の「当日投票システム投票者数」というのは、これは何なんでしょうか。例えば、箱の中に入った、「投票数」を何かカウントしたものだということですか。

○事務局

入場整理券というものを、選挙人の方がお持ちになります。そちらにバーコードがついていまして、それをシステムで読み込みます。そうすると、この当日投票システムの画面のように、男性だったら男性が 1 増え、カウントしていくような形でご

ざいます。また、そのシステムで名簿との対照もします。

○谷口委員

なるほど。従って、受付時の記録の数字ということですよね。この資料7の3のページの、当日投票システム投票者数受付時の数字と、交付機から投票用紙が出てくるカウンター数と、入場整理券というのが「正しい投票者数」かということ、そうかなというか。書き方としての話なんですけれども。「正しい投票者数」というのは、あくまで箱の中に入った投票と、あとは期日前投票とか不在者投票といった数字の「実態」ですよね。それが「正しい投票数」であって、それを正しくカウントして集計することが重要なので、ここにおける作業というのはあくまで受付とか交付数であるとかの、開ける前の作業の数字のズレを見るものだと思うので、ハードルを高くしなくても良いかなと。ここは、要するに事務方のほうで、確かに受付ミス・交付ミスがある場合と、有権者の側が持ち帰るといった問題もある。1つの投票所だけで数件の問題があると、70 投票所で合計 100 以上のズレを生じてしまうようなことが起きかねない。受付とかカウンターとかこういった部分というのは、事務方の問題と、有権者側のイレギュラーな行動と両方から、何かしらのズレというのは起きるなという感じはするんです。なので、大事なことは、先ほど最初に言ったように、そういったズレも、ずっと確認していくことは大事なんですけれども、箱に入っている票数と「期日前投票者数」と「不在者投票者数」が「正しい投票者数」ということではないでしょうか。

○小島委員長

はい。何か、今の谷口先生からのご指摘のことであれば。

○事務局

こちらの投票者の数というのが、「投票者数」でございまして、開票所の、まさに今谷口委員がおっしゃったのが、「投票数」になります。その違いによって、委員がおっしゃった通り、投票者数が「100」で、投票用紙が「90」だと「10」の持ち帰り票があったのではないか、みたいなことに最終的にまとまるのですが、この「投票者数」、受け付けた数がズレてしまうと、それ自体がわからなくなってしまう。例えば70ヶ所で1ずつずれると70減ってしまう。なのに、投票用紙が多いといった問題が生じますので、根本は「投票者数」をしっかりとしたいということです。

○谷口委員

前提としてということですね。分かりました。ありがとうございます。

○小島委員長

はい。この「投票者総数」、開票というのは、投票所によって正確に「投票者数」を把握しないといけません。基本的に、今先生がおっしゃったように、投票箱に入っている投票用紙の枚数と、各投票所で投票した人の数、期日前投票者数、不在者投票者数を含めて、イコールであることが基本的原則であるということなんです。当日投票システムっていうのは、先ほどもお話しいただいたように、あくまでも受け付けをした、要する選挙人名簿、いわゆる平たく言うと名簿対照が終わった、その数であるというふうになります。それから、名簿対照が終わり、投票用紙交付係で投票用紙をもらいました。でも「私これやりませんよ」と、返されましたということになると、この「当日投票システムにおける投票者数」を後で補正しないと、正確な投票者数にならないということになります。そうしないと、開票の段階で投票者総数と投票総数に齟齬が発生してしまうということなので、これはどうなのかなと思いましたけれど。いずれにしても、7時から19時までの間、1時間ごとに、例えばですよ、交付した投票用紙の枚数と、実際に突合した名簿対照、それから回収した投票所入場券の数、投票用紙の交付の枚数を突合して、一致しているかどうかを1つ1つ、毎時間ごとに確認するということで、正確に積み上げていかないといけない。いきなり最後になって積み上げても分かりませんから。それから、棄権した人が投票用紙を返してきます。誰か特定できれば良いんですけども、男女が分からなくなります。でも、最終的な投票総数から引かないと、開票所で数字的には投票したことになってるんですけども、投票箱に入ってませんから、その分持ち帰りという形で差が出てしまう。この投票所の数字というのは非常に重要なんです。ですからここできちっとやっておかないと、今回みたいな問題が発生してくる要素は捨てきれないというふうに思います。現状から改善策が出てきてるということですので、それはそれでよろしいかなというふうに思います。この問題点も、きちっと把握して出していただいておりますので。この問題点に沿って、次の改善策が出てきてると思います。「当日投票システム投票者数」「投票用紙交付機のカウンター数」「入場券の回収枚数」、そして、注意しないといけないのは、投票用紙交付機ですよ。あれ下手すると、投票用紙をよく捌かないでセットすると2枚くつつ

いて出てしまうんですよ。係員の人が手に取って渡せば、2枚出ていれば1枚しか渡さないんですけど、有権者の人に取ってもらう仕組みだと、そのまま2枚くっついていたものをそのまま持って行っちゃうケースが、過去に他都市ではあって、結構投票所で問題になったことがあるんですよ。ですから、そういうことも踏まえてやらないと。2枚もらった人は、分からずにしめしめという形で書いてしまう場合もありますから。そうすると、やはり投票者総数と、投票用紙枚数の齟齬が絶対生じてしまうということですし、それから一人一票主義の公職選挙法の原則からも外れるということなので、まず、投票用紙を交付する段階で確実に、1選挙人、1枚、そういうことも含めて確認する体制というのは必要だろうというふうに思います。はいどうぞ。

○堀江委員

すみません。2つ教えていただきたいんですけど。この投票速報の数字の作り方、入力なんですけども。今問題になってる不在者投票は、それぞれの期日前投票所で受けている数は入れてないんですよ。その辺も変わってくるんですかね。今ですと第44投票所でしたっけ。どこか特定のところでやってますよね。

○事務局

そうですね。期日前投票所では、不在者投票の受付はしておるのですが、それは大田区の選挙人の方ではなく、例えば大阪のほうから出張で大田区に来られて、不在者投票をしたいという場合は、大田区の期日前投票所が不在者投票所も兼ねておりますので、そういった方は、期日前投票所で行っております。ただ、今回の「不在者投票者数」で計上してる、例えば第1投票区、第2投票区というのが、不在者投票の請求された方がどの住所に属するかというところにございますので、例えば第1投票区ですと田園調布にお住まいの方なのですが、その方が不在者投票として実際に投票を行うと、第1投票区に計上されるような仕組みになっております。なので、実際には、期日前投票所で不在者投票を行ったものとはまた違うようなものとなっております。

○堀江委員

違うってことですかね。はい。すみません。それでもう1つなんですけど、最終的に、速報値を送る場合は、事務長が新しく決裁を取る形を取ってますよね。それは、資料4の方のフローチャートで見ると、それぞれの投票所には、ここの数字と

というのは、現場の庶務係長と事務長が決裁をしているものになるんですかね。

○事務局

そうですね。この資料6の最終ページのところにシステム改善及びフローの見直しというところ、右上の投票係長、事務局長の決裁欄は、実際に資料4の開票所にすべて投票録などが到着した後に、午後9時半までに投票速報を確定しなければならない、この作業に使用してるものとなっているので、実際にこの投票速報というのは、投票所の従事者の方ではなく、速報室というところで従事されている選管職員1名と、今は応援職員3名の4名体制で行っておりまして、一応以前はこの4名で数字をチェックはしていたような状態なのですが、ただ、そこに決裁ということで、選管の投票係長や事務局長の決裁は、特段していなかったもので、各投票所ではなく、開票所の速報室でこの投票速報を作成した後の決裁という位置付けでこの様式に組み込んでおります。

○堀江委員

はい。すみません。それでは、業務の具体的な集計方法及び投票録への反映というところで、出てくるのは、確認欄は庶務係長と事務長になってますよね。7時から19時とか、投票所閉鎖もありますよね。それで、現場から持ち込まれる時の現場の確認欄というのは、各投票所の庶務係長と事務長、それらをまとめて、最終的に選挙管理委員会の出した数字について、この最後の決裁欄のところに、投票担当係長と事務局長の判子が押されるということですかね。

○事務局

先程見ていただいた集計表は、投票所70ヶ所で各事務長、庶務係長、仮にこの2人の確認をすることになっているのですけれども、これを最終的に作り上げて開票所に送る投票録に数字を入れこみます。それ自体は、投票箱と一緒に開票所に届きます。それと同時に、この投票録を「投票システム」（スマホ）というものに入れ込み、それがデータの根本になります。先にデータが来ていて、投票速報担当は、そのデータと届いた投票録の数値を確認して最終的なものになるという流れです。

○小島委員長

はい、よろしいですか。私の方から。指定投票区制度をとってますよね。指定投票区制度をとっているということは、不在者投票の受理・不受理の決定は、指定投票区で一元的に行われると。そして、指定投票区以外の指定関係投票区には不在者投

票を送致しないということですから、投票速報で基本的にその投票区ごとに不在者投票を振り分けるというのは、必要はないんじゃないかと思いますし、私のやってきた実務では、特に振り分けてないです。振り分けるとやはり、リスクが分散されるんですね。わざわざ指定投票区にしてるということは、リスクの分散を避けるので、1つの投票区で全部不在者投票の受理・不受理を決定して、そして投票箱に入れるという仕組みなので、不在者投票そのものを投票所ごとに振り分ける必要性は、指定投票区制度をとっている以上ないような感じがするんですよ。そういう意味で言うと、投票区ごとに、数字を振り分ける必要はなくて、指定投票区にすべて一元化すれば良いし、基本的に指定投票区の投票録にだけ不在者投票者数の欄が書いてありますよね、不在者投票の数というのは、それで良いのかなと。私は自分の経験の実務ではそういうふうにしてきたので。そうしないと、計算ミスしたりする可能性がある中で、意味があってやっているのかもしれませんが、私としては意味がないのかなと。指定投票区制度をとっている以上は、指定投票区で一元的にやれば良いんじゃないかと。そうすると、やはり数字のミスというのは減るのでは。分散されませんから。ほとんど起きないという感じがします。

○事務局

そうですね。この投票速報の様式というのは、大田区、各自治体独自で定めておりますので、確かに我々のほうで説明している中でも、不在者投票者と期日前投票者が第1投票区から70投票区、特に不在者投票のところが、なかなかすぐには分からないようなところもあるかと認識しましたので、この投票速報の様式も含めて、他の自治体がどういう様式でやっているのかも情報収集した上で、今後必要に応じて様式を変更していきたいと思います。

○小島委員長

よろしくお願いします。この件、資料6、7について、この辺でよろしいですか。はい。ありがとうございます。それではこの件について終わらしてですね、続いて、最後の資料8「再発防止に係る検討内容」。かなり事務局の方で、詳細に検討していただいていますので、まずご説明をいただいて、各委員の皆様から、それぞれのできるだけ項目に沿ってご確認いただくようにしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○事務局

それでは、資料8についてご説明をいたします。今回の不適正事案、特に不在者投票者数の二重計上、投票者数の水増しといった事案を踏まえまして、選挙管理委員会事務局として、まず自らの業務全体を精査し、課題の洗い出しを行いました。また、先ほどご紹介いたしました投票・開票従事者アンケートで寄せられた意見や指摘も参考にしながら、課題をこちらに書いてあります6つの視点に整理したものです。あくまで事務局案でございます。次ページをご覧ください。資料の構成としましては、まず上段に「現状と課題」をまとめております。その下に、課題に対する「改善案」、その具体的な内容、さらに実現性を高めるために必要な「補完項目」を記載しております。「何が課題か」「どう改善するのか」「実行するには何が必要か」というところで示しております。それでは、まず1の「数値管理体制の不備」というところでご説明させていただきます。こちらでは、特に投票者数、票数、入場整理券などの数値の整合性に関する課題を整理しております。現状と課題でございますが、まず、投票所ごとに運用が異なっており、標準化されていないという点がございます。また、庶務係長に作業が集中し、ダブルチェックが十分に機能していない体制となっております。さらに、不一致が発生しても、20時の投票所閉鎖まで気づけない構造があり、その結果、開票作業にも影響が及ぶ場合があります。あわせて、開票録の確認体制、こちら也十分でないという課題がございます。下段の改善案でございますが、先ほど別資料でご説明しましたとおり、時間別突合の標準化、つまり、投票者数、用紙交付数、あとは入場整理券の3点を時間で確認して突合する仕組みを導入したいと考えています。また、速報のダブルチェックの徹底や、棄権者の処理方法の統一も盛り込んでいるというところでございます。開票の場面におきましては、票数を確認する決裁ライン、こちらを明確化した上で、ルール化して精度の向上を図ってまいりたいと考えております。それでは、次のページをご覧ください。2の「組織・権限の明確化」についてでございます。こちらは、不一致やトラブルが生じた際に、誰が判断し、どこに報告するのかという点を整理したものでございます。現状の課題としましては、不一致やトラブルが発生した時の判断基準が曖昧で、現場で迷いが生じる場合がございます。また、選管本部との連絡体制が十分ではなく、特に投票所閉鎖後は連絡が滞りやすいという状況が課題でございます。改善案としましては、不一致が発生した際の確認フローを明文

化し、たとえば名簿の照合漏れやカウンターとの差異など、ケースごとに確認すべき手順を明確にしていまいりたいと考えております。あわせて、先ほど資料7で提案させていただいたところにも関わるところですけれども、新たに「集計係」というものを設けて、役割と責任を整理していきたいと考えております。さらに、選管本部の連絡体制の強化や、危機管理マニュアルの整備を進めまして、開票所についても、重大事案が発生した場合の対処ルールを定例化していまいりたいと考えております。それでは、次のページをご覧ください。続いて3の「職員・従事者の習熟不足」でございます。現状の課題でございますが、まず、職員の入れ替わりが多く、経験やノウハウが組織として十分に蓄積されていない点が挙げられます。また、従事経験が浅い職員が重要な工程を担当する場面も見られ、習熟度にばらつきがある状況でございます。さらに、研修自体が体系化されておらず、短期間で正確に身に付ける仕組みが不足していることも課題となっております。改善案でございます。投票者数の集計やアシスタント業務など、負荷や重要度が特に高い業務については、研修を重点的に行うこととしており、また、開票事務や投票事務の経験者リストを作成しまして、継続して配置できるようにすることを盛り込んでいます。加えまして、ロールプレイングや想定トラブル対応など、実際の現場を踏まえた実地型研修を取り入れること、あとはオンデマンドの学習資料を整備して、誰でも必要な時に学習できる環境とすることも改善項目としております。続きまして、次のページをご覧ください。4「作業時間不足と業務工程の逼迫」でございます。現状では、投票所閉鎖後の短時間に、投票者数の集計、投票録の作成、送致準備などの業務が集中しています。物理的に時間が不足しているという課題があります。加えて、速報作業も時間的な制約が大きく、時間に追われる中でミスが誘発されやすいという状況がみられます。また、期日前から当日、そして深夜の開票作業までが連続するため、職員への疲労蓄積が大きいということも問題でございます。改善案としては、先ほどご説明した時間別集計とも関係いたしますが、集計係を新たに設置し、庶務係長に負担が集中しない体制を作ることが重要だと感じております。また、投票所開設時の準備作業においても人員を増やし、チェックリストを整理・簡素化することで、作業の正確性を図っていまいりたいと思っております。さらに、開票事務の集合時間を見直すことや、速報の初回公表時刻についても、正確性を優先できる運用へと見直しを進めるべきと考えているところでございます。それでは、

次のページの5「人員体制」でございます。現状では、選挙事務に従事する経験者が減少しております。若手中心で、どうしても知見が蓄積されにくい状況がございます。また、兼務職員は通常業務との両立が難しく、十分に関われない場面もございます。さらに、長時間労働に依存した体制となっておりまして、持続可能性の面でも課題があると認識しております。改善案としましては、まず、経験の蓄積を図るために、指定投票区や速報担当について、継続的な配置を計画的に行う仕組みを検討します。また、応援職員の増員や、投票担当職員を開票所に一定数残すなど、シフト制を前提とした勤務体制への転換も盛り込んでおります。加えまして、外部委託や派遣人材の活用も選択肢として整理しまして、区職員の負担軽減につなげていくことも位置付けているというところでございます。それでは、次のページをご覧ください。最後に6の「その他、業務効率化に関する事項」でございます。現状では、紙資料が中心で、数値の転記や集計が多く、ミスの温床になりやすいという課題がございます。また、マニュアルが複雑で仕様がばらつき、あと属人性が排除しきれていない状況です。速報、投票、開票の記録などがそれぞれ独立しているために、連携がアナログで手間とリスクが大きくなっているという状況がございます。改善案としては、まず、期日前投票所運営マニュアルを統一化するとともに、投票所のレイアウト改善によって作業効率を高めることを計画したいと思っております。さらに、投票録につきましては、タブレットやデジタルの入力等を将来的に検討しまして、速報と投票録の情報を一体的に管理する仕組み、そういったものと考えてまいります。問い合わせ対応の効率化や、将来的なAI活用も視野に入っております。また、開票所では、参観体制を見直すことで、透明性向上にもつなげてまいりたいと考えております。以上、6つの項目についてご説明いたしました。これらは全て、今回の不適正事案を踏まえ、再発防止に向けた実効性ある改善策の事務局案として整理したものでございます。委員の皆さまからのご意見をいただき、さらにブラッシュアップしたものを次の第三回に出していきたいと考えております。また、第三回では今回具体的な事務局案ということで2つ出させていただいていますが、水増し等に関連する具体的な対策案を次回示していきたいと考えているところでございます。説明は以上でございます。

○小島委員長

ありがとうございました。再発防止に係る詳細な改善策、課題に沿った中身を事務

局の方から提示していただきました。それぞれについて、各委員の皆様方から、それぞれの細かい項目でも構いませんので、1つ1つもしあれば、ご意見をいただいきたいと思います。よろしくお願いいたします。はいどうぞ。

○佐藤委員

私、色々と先ほども出てきた件で、再発防止として、ここに書いていただいた中で一番気になった点というのが2番目の組織・権限の明確化と、緊急時対応フローの整備というところでございまして。長時間勤務でミスをしてはいけない重要な業務をやっている担当者の方が、でも人間なのでミスをする、あるいはわからないことも出てくる。何をしたら良いのかと悩むようなところもある時に、それを助けてくれる、報告できる体制がないというところでは、そのミスを隠してしまう、その方のやる気を失ってしまう、というところで問題だなと思っておりまして、組織を明確にして、この組織全体で、この選挙という重要な業務をみんなでやっていくんだ、だから困ったことがあったら相談して良いんだよっていう、そういうような雰囲気を作っていただけるような組織にしていいただければ、やってらっしゃる方たちもやる気も出ますし、安心して業務を遂行できるなと思っております。この部分について、他のものも、もちろん重要ですけれども、検討いただければなというふうに思いました。

○小島委員長

ありがとうございました。どうぞ。

○谷口委員

はい、ありがとうございました。本当に丁寧に、様々な点が網羅的に、改善策として整理されているので、すごいなと思います。人の体制や作業プロセスの改善策が、一番丁寧に検討・提示されているという印象です。それらもちろん大事なことだと思うんですけど、一方で、今回の問題の再発防止という視点で言うと、実は物の体制の問題っていうのが結構大きい。人はちゃんとやっていたけど、さっき言ったようなPDFファイルの書式さえ、もうちょっと親切だったら、防げた問題だったかもしれない。この資料におきましては、投票事務の標準化とか、入力構成の精度向上が出てきますけれども、そういったことは重要と思いました。もう1つは先ほど、佐藤委員からもお話があったように、大きな数値ずれがあった時に、これまで体系立った振り返りというのをしておらず、時間もない中で不正が起きたという

ことがある。こういう危機時に、効率よく振り返られるようなフローとかガイドラインなどが整備されるっていうのは、非常に良いことだと思います。そこで、先ほど物の体制が大事なんじゃないかと指摘しましたが、今回の不在者投票とか、期日前投票っていうのは、その日はPDF ファイルを出力した紙しかなかった。そこが非常に怖いなど。システムの中で、1 票 1 票に ID を付けて蓄積する仕組みだということなので、それはいわば投票箱の中に入った票なんですよね。なのに、当日の作業の時にはその中身を確認できないっていうのは非常に怖いことだと思います。期日前、不在者投票数というのは、最終的な値を構成する重要な要素で、今回そこが間違っただけから、失敗したわけなので。当日、システムに立ち戻って、データを見られる方が安心だと思います。システムを動かす PC などがたぶん別の場所にあって、当日の集計場所にそれがないとか、オフラインにしないとよくないとか、色々あると思うのですが、オフラインのノートパソコンでシステムを扱うとか、生データに戻れるような仕組みが当日あった方が安心という気がします。そこは人の体制というよりも物の体制の改善策だと思います。

○小島委員長

ありがとうございます。いかがですか。どうぞ。

○堀江委員

はい。今お二人からお話があったことと同じなんですけど、PDF ファイルの問題で、なぜ PDF なのかという理由を考えると、入力ミスで数字が変わってしまうことを避けるためにあえて PDF にしたのかなと思ったのですが。実際入力していったら、数字が合致していれば、OK ということで。

ただし、谷口先生がおっしゃった、当日の入力ミスをカバーする改善点としてエラー表示が出るようにシステムを見直されるのかなと思います。

もう 1 つは、投票所ごとに投票所提要进行を、要するに事務提要进行みたいなのができていると。それを統一化しないといけないっていうのはちょっと書いてあったんですけど、各投票所によってマニュアルができているっていうことがあるんですか。

○事務局

期日前投票のマニュアルは、個々の特別出張所に独自のマニュアルがあります。それが選管発の総合的なマニュアルとのずれがあり、課題と思っています。出張所から期日前の時に問い合わせがあります。マニュアルを統一することで、効率化も上

がってくるのかなというところで、やっていきたいと考えております。当日投票所に関しては1つのマニュアルでやっているという状況でございます。

○堀江委員

はい、すみません。6番目のその他のところですよ。そこに書いてあって、1番最初ですかね。各出張所ごとに作成したマニュアルがある。そのことですよ。言えよかったですね。すみません。ありがとうございます。それともう1つ、素晴らしいなと思ったのは、4番の作業時間不足と業務工程のひっ迫、投票事務の一番最初のところです。集計係を設置するということです。実際にこれシミュレーションしてみないと、時間の洗い出しとかができないんですよ。なかなか難しい。難しいシミュレーション。すごいことを考えるんだなと思ったんですけど、その辺、素敵なものを組んでいただいて、オペレーション通りいくと良いなということですよ。そこのところの3番目。開票従事者の集合時間を従来の30分ずらすっていうようなこととか、色々時間的なことが書いてあるんですけど、この辺は、区の流れに沿ってできるものなのか、他との整合性とかはないんですか。この30分遅らせて、落としどころが最後の10時とかね。その辺の時間は大丈夫なんですかね。

○事務局

3番の開票従事者の集合時間の変更については、こちらの従事者の方からも早く集まり過ぎだという意見がかなり多数を占めておりましたので、早く来ていただかないとならない従事者の方は、やはり従前通り8時なり、その前にあたりはするんですが、特段そこまで早く来なくても大丈夫な方に関しては、30分遅らせる。これは可能かと考えております。逆に4番の開票速報の公表時間の変更ということなんですが、こちらは今までの慣習として、午後10時に公表ということでやっておるので、これを変えるとなると、やはり区長部局、特に広聴広報課など、おそらく報道機関、マスコミ対応もあろうかと思しますので、そこまで具体的に協議が進められてはいないんですけれども、こういった状況の中、やはりスピードより正確性を重視したいという選管の根幹となろうかと思しますので、今後、関係機関と協議をして、可能な限り努めていきたいと考えております。

○堀江委員

はい、すみません。その補足項目のところよく読めよかったですね。粗く見ちゃったので、関係機関との協議っていうのがありましたので、そこまでちょっと見き

れないんで、すみません。ありがとうございます。

○小島委員長

どうもありがとうございました。よろしいですか、私から。今の開票事務従事者の集合時間の変更に絡むんですけど、基本的に例えば、一番先に終わる開披分類係、それが終わったら、ほとんど帰ってもらうとか、そして、一部の人は、第1内容点検、第2内容点検に移行して、それが終わったら帰ってもらう人が出てくる。投票用紙計数機による計数に移行する人は残ってもらうというように、段階的に返すというやり方を、私の実務の経験ではやっていました。集合時間を遅らせると、今度、来た時にその場は混乱するというか、どこに行くんだ、どうやらされるんだっていう話になりますので、基本的には段階的に必要のない人は帰っていただいて、最後残ったのは、審査係と要するに開票録などを作成する中心となるメンバーという雰囲気で行っているケースも現実には東京都のある市の開票に何回か私も経験しに行ってますけど、そういう形でやっていますので。ただ開披分類係は終わったのにもうそこにずっといさせる必要は全くないわけで、逆に、邪魔になっちゃうんですよ。余計な人がいると。どんどん終わった瞬間に担当者に帰っていただくというような仕組みを必要かなと思った次第です。それから開票速報の公表時刻ということで、一般的に、午後10時から初回という形でやっていきます。私の実務経験で言うと初回は大体候補者の全員が0票なんです。全員が0票ということだと開票率はすぐ出る必要はないということになりますんで、そうすると、私の経験でも結構投票の確定というのは遅れるっていうことはありました。もうヒヤヒヤで2回目の30分後の速報。10時30分現在の時に確定してない、しそうもないっていう雰囲気もあってヒヤヒヤしたことありますけど、いずれにしても、開票率の算定のために絶対必要ということなんで。何でそれだけ遅くなるんだと。何がその要因なんだっていうね。確定させるためには、そこですよね問題は。ということはやっぱり、色々な手順だとか帳票だとか、システム上何かあるのかなっていう感じがしないでもないです。さっきも申し上げましたが、不在者投票については、投票区ごとに振り分ける必要性がないので、そういったことも改善の余地はあるかなと私は思いました。あとすみません。この4番のところ、投票録の作成なんですけど、これ基本的書けるところはあらかじめ全部書いていますよね。事前にあらかじめね。要するに書けないのは数字だけですから、ということですよ。例えば、この間の参議院

議員選挙は比例代表選挙と選挙区選挙あるんですけど、2通作っているということなんですか。そこは改善の余地ありますね。共通ですから他のところは。ですから数字的などこだけ分ければ良いだけの話なので。それは結構全国的にやっているケースもあります。例えば、私も川崎市で5つの選挙いっぺんにやった時に、5通作るなんてこと絶対やっていませんから。全部、選挙の種類ごとに数字が違うところだけ、他、投票所の表示ですとか、立会人、管理者、投票所全部同じですから、共通ですから。当然表題、5つの選挙名を併記した、何々選挙投票録、そういう表示ですよ。その辺もちょっと改善の余地があるかもしれないですね。投票録の作成で最後にバタバタ、数字以外は全く同じものを作って、違うのが数字だけっていうのは、ちょっと非常に不合理であります。よく公職選挙法施行規則の様式に準じてとかそういうふうになっていますけども、基本的に私らがそれをやる時に、総務省にも確認しましたが、問題ないという答えをもらって、その上でやっているということなので、そういう改善も必要でしょうね。それから投票箱の封印って書いてあるんですけど、これ施錠の意味ですか。封印っていうのは。何か紙かなんか貼って封印しているのですか。

○事務局

実際には南京錠で施錠しています。

○小島委員長

そうですね。封印というのはそういう意味ですよ。施錠って意味ですよ。あと何かよろしいですか、他。

先ほども委員の皆さんからありましたけど、トラブルが発生した時の、そういう時に相談できるとか、疑問だとかの受け皿は非常に重要だと思います。70投票所もありますと、投票所での現場における問題とか、いろんな有権者の方が来て対応に色々苦勞するということもあるかもしれませんが、判断を要するということもあるじゃないですか。コールセンターとまでは言わないにしても、そういうのは必要でしょうね。何かあった時に聞けるというには。そうすると実務的な経験を積んだOBの人に待機してもらおうとか。そういうのもやっていると思いますけど、重要ですよ。聞きづらいということになると、他の委員さんがおっしゃいましたが、聞かないでそのままやってしまうとか、確認しないでも大丈夫だろうなんてね。そうしたケースがあると思うんですよ。だから今回のケースも、それに似たケースな

んじゃないかなという感じはするんですけどね。それではいけないと思います。

他よろしいですか。

あと、3の職員の従事者の習熟の不足の部分で、開票のところ、3番で経験者の継続的な、これ重要ですよね。OJT。結局私たちの選挙の執行っていうのは、現場がありますので、机の上で選挙やっているわけじゃありませんので。現場で投票事務・開票事務をやっていますので、現場経験、要するに現場経験も自己流の現場経験じゃなくて、基礎知識に則った、正規のルールに則った判断基準を持った人が必要かなと。それを育てていくことだと思います。以上です、私からは。

意見も今日のところは出尽くしたということで非常によかったかなというふうに思います。本当に詳細に作っていただいたので、我々としても、審議しやすい環境を作っていただいたことについては、事務局の努力に御礼申し上げたいと思っております。いずれにしてもまた何か、委員の皆様方、気づいた点があれば事務局の方にお話いただければ良いかなと思います。よろしいですか。もう時間も来ましたので。次回の関係について、話を進めたいと思いますけれども。次回については、かなり機微に富んだ内容等も含まれる可能性もあるということですので、佐藤委員の方から提案が1つあるということでございますので、よろしくお願いします。

○佐藤委員

私、佐藤のほうから提案させていただきます。今日お話をしましたのが二重計上の件でミスについてのお話で、ミスにつきましては組織体制についての問題となるのですが、次回、検討する内容といたしましては、水増しに係る行為というふうにお伺いしております。こういう不正行為についての原因究明及び再発防止策につきましては個々のケースによって非常に異なってまいりますので、かなり踏み込んだ形で、個々の情報をお聞きすることになります。具体的に申し上げますと、よく企業さんでやられている不正のトライアングルという機会、動機、正当化という、この3つの観点から色々と踏み込んだ質問をしていって、何が原因なのかっていうことを究明した上で再発防止策を提案させていただくということになります。ですので、その個人を識別してしまうような個人情報に踏み込んだ質問をしないと、うまく議論を進めていけないというそういう状況にございます。他方、本件につきましては、捜査中の案件だというふうにお伺いしております、事実関係についてはまだ調査中、まだ固まっていないと。こういう固まっていない状態での事実関係を、この

場で前提として開示をするということは、非常に個人情報保護あるいは個人にかかる情報開示の点で問題が生じるのではないかというふうに思っております。さらに捜査案件ということで、捜査に関わる影響を与えるということも懸念をしておりますので、ですので次回に関しましては非公開という形で進めていただくことを提案させていただきます。

○小島委員長

ご提案ありがとうございます。他の委員の皆様方、いかがでしょうか。

ただいまのご提案について。特に異論はないということでよろしゅうございますか。したがって、私、委員長の権限といたしましては、この大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会 運営要綱 第4条の第4項にあります 会議の全部又は一部を非公開とすることができる ということでございますので、会議を公開することにより、率直な意見交換若しくは審議の公正性が阻害され、又はその恐れがあると委員長が認めた時というふうに該当すると私は判断しますので、次回につきましては非公開とさせていただきたい。そのように決定させていただきたいと思います。事務局よろしいですか。

○事務局

はい。ありがとうございます。

○小島委員長

それでは、今日の審議につきまして以上になりますけども、今日は本当に活発な委員の皆様から非常に有益な、今後の改善策に十分資する、そういうものが出てきたと思いますので、私自身としては、大変有意義な本日の委員会だったというふうに考えております。

その他何か委員の皆様方から補足、ご意見何かあれば頂戴して、なければ閉会とさせていただきますということでございますけれど。よろしいですか。

それでは、傍聴の皆様におかれましては、お越しいたきまして本当にありがとうございます。こういう審議をつぶさに聞いていただいて、皆さん方もご関心があったのかもしれませんが、それでは、事務局のほうに、お返しいたしますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

皆様ありがとうございました。本日の会議はこれで終了になります。また、本日の

議事録については後日、区のホームページへ掲載させていただきます。なお、先ほど委員長からお話あった通り、今回は非公開となります。詳細については区のホームページ等でご案内させていただきますので、よろしくお願いいたしますと思います。本日はどうもありがとうございました。